

欧州製薬団体連合会 アクセス委員会 医療技術評価に関する国際シンポジウム開催報告

- 欧州製薬団体連合会、医療技術評価に関する国際シンポジウムを東京大などと共催
- 総合的評価(アプレイザル)の客観的手法を巡り活発に議論、HTA 専門家等 150 名が参加
- 海外事例の紹介など通じて費用対効果評価の是非を検討する多様な視点を提供

欧州製薬団体連合会(以下、EFPIA Japan)アクセス委員会は 2017 年 12 月 11 日、東京大学公共政策大学院などと共催で、医療技術評価(以下、HTA)における費用対効果評価の多様なアプローチを検討する「第 6 回医療技術評価 国際シンポジウム(根拠に基づく費用対効果の判定を考えるー多基準意思決定分析(MCDA)の活用の可能性ー)」を同大本郷キャンパス(東京・本郷)で開催しました。

本シンポジウムは、東京大学公共政策大学院 医療政策・技術評価 研究ユニットが主催しました。EFPIA Japan のほか、同大学院 科学技術イノベーション政策の科学教育・研究ユニット、キヤノングローバル戦略研究所(CIGS)、ヤンセンファーマ株式会社が共催、明治大学国際総合研究所が後援し、主に産学から HTA 専門家ら約 150 名が参加しました。

シンポジウムで議論された「多基準意思決定分析」(Multiple Criteria Decision Analysis、以下、MCDA)は、複数の基準で代替案を評価して選択を支援しようとする分析手法の総称で、医療分野に限らず、政策決定やビジネスにおける意思決定での活用が期待されているアプローチの一つです。HTA を導入する諸外国では近年、アプレイザル(HTA において収集した情報に基づく医療技術の総合的評価)において MCDA 活用が検討され、一部の国では導入されています。

日本では現在、独自の費用対効果評価に基づくアプレイザルを通じて、医薬品や医療材料の価格を調整する議論が行われています。しかし、アプレイザルを巡っては、世界的に確立された手法は存在せず、諸外国では試行錯誤を通じて検討を継続している状況です。

EFPIA Japan は、日本において HTA や費用対効果評価の是非を検討する場合、産官学が協働して MCDA を含む様々な手法や海外事例を参照し、最適なアプローチを共に模索していく必要があると考えています。

意思決定の透明性をめぐる活発な議論

シンポジウムでは、MCDA の考え方や利点・欠点、HTA におけるアプレイザルへの MCDA 活用の期待と懸念が議論されました。

参加者らは、米国に本部を置く国際医薬経済・アウトカム研究学会 (ISPOR) の委員や欧州の医療経済専門家らによる講演「MCDA の基本: 医療技術評価への応用の利点と限界」を通じて、MCDA に対する基本的な理解を深めました。

シンポジウムでは、欧州や北米における MCDA を導入した意思決定の事例や、希少疾患やがん治療の領域での MCDA 導入事例も紹介されたほか、東京大公共政策大学院特任教授の鎌江伊三夫氏が日本の薬価制度における MCDA の活用の可能性について講演しました。パネルディスカッション「根拠に基づく政策判断における MCDA の意義と役割」では、パネリストが MCDA を政策決定に導入することの是非を議論しました。

参加者からは、MCDA に対する期待として、MCDA が複数の因子の影響と重要性を考慮する分析手法であるため、透明性をもって多様な情報をシステムティックにまとめていく HTA のプロセスと親和性があるとの意見も寄せられました。また、「審議重視型や分析結果重視型など複数のアプローチがあり、状況によって使い分けるべき」など MCDA の運用方法も提言されたほか、因子の重みづけについて関係者で合意する難しさが指摘されるなど、活発な意見交換が行われました。



シンポジウム当日の様子。多くの来場者が HTA 専門家の講演や議論に耳を傾けました。(写真: EFPIA Japan)

用語解説

医療技術評価 (HTA)

医療技術の利用に関する医学的・社会的・経済的・倫理的な問題についての情報を、システムティックに、透明性を持って、偏見なく、着実にまとめていく学際的なプロセスのこと

アブレイザル

HTA において、収集した情報に基づく対象医療技術の総合的評価を行うこと。諸外国では MCDA の活用を含む種々の手法が検討されている

多基準意思決定分析 (Multiple Criteria Decision Analysis = MCDA)

複数の基準で代替案を評価し選択を支援しようとする分析手法の総称。医療分野に限らず、政策決定やビジネスにおける意思決定での活用が期待されている

欧州製薬団体連合会 (EFPIA Japan)

2002 年 4 月に設立された EFPIA Japan には、日本で事業展開している欧州の研究開発志向の製薬企業 24 社が加盟しています。2016 年の加盟各社の総売上高は、日本の製薬市場の売上の約 22% を占めています。EFPIA Japan の使命は、「革新的な医薬品・ワクチンの早期導入を通じて、日本の医療と患者さんに貢献する」ことです。EFPIA は常に「患者さん優先」に注力することで日本の医療向上に向けて政策決定者との対話を強化することを目指しています。(EFPIA Japan ホームページ: <http://efpia.jp>)

EFPIA Japan Secretariat Office

c/o Novo Nordisk Pharma Ltd.

Meiji Yasuda Seimei Bldg. 2-1-1,

Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0005, Japan

info@efpia.jp